

1-3 介護ロボット等の活用に向けたポイント

(1) 介護ロボットマネージャーに求められる役割

介護現場において、介護ロボット等の導入の検討や活用を促進するためには、介護業務の課題把握、機器の導入計画の立案、機器の効果的な活用、機器導入後の評価・改善などを一連のサイクル（PDCA サイクル）で行うことが望ましい方法です。

介護ロボットマネージャーには、介護ロボット等を活用した新たな職場づくりに着手するかどうかの判断や提示を行うとともに、介護ロボット等の導入・活用のPDCA サイクルの全体管理とあわせて、職員のモチベーションの維持・向上への支援や人材育成を行うなど、総合的にマネジメントする能力が求められます。

(2) 介護ロボット等導入と適切な運用に向けて

ア. 新たな職場づくりに着手するかどうかの判断や提示

新たな職場づくりに向けた、介護ロボットマネージャーの役割の第一歩は「働きやすい職場づくりの検討をしよう」、又は、さらに一步踏み込んで、「介護ロボット等の導入について検討してみよう」などとの声を上げ、方向性を示すことです。

日ごろの職場の状況や職員の声、介護サービスや入居者の様子、経営状況等を踏まえ、さらには、全国の介護施設や国からの情報を収集し、自らの施設において、今必要とされる検討や取組みは何かを判断し示してください。

国においても、働きやすい職場づくりを目指して、「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン⁴」を発行し、介護ロボット等の活用も好事例として掲載されています。

後段の「2 介護ロボット等を導入した介護ロボットマネージャーの声」で説明する、実際に判断し行動してきた講師の講演を是非参考にさせていただき、次期の予算や体制の検討を行う際等を機会にして、長期的な展望をもって介護ロボット等導入・活用の検討の方向性を提示してほしいと思います。

4 厚生労働省ホームページ掲載資料「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei.html>)

イ. 介護ロボットの導入・活用のPDCAサイクルの全体管理

検討を行う方向性を示し、PDCAサイクルを動かし始めた後には、展開が進んでいるかを全体管理することが大切です。後段の「3 マネジメントとその具体的方法」において、詳細に説明します。

ウ. 職員のモチベーション維持・向上への支援や人材育成

新たな介護ロボット等の導入によって、今までの介護方法が変更されるため、介護職員の中には不安や精神的負担を感じる場合があることを予測しておく必要があります。

また、職員が自信をもって業務に携わり、職員間で気軽に相談でき、協力・支援できる職場環境を整えることが重要です。

さらに、PDCAサイクルに取り組む職員や介護ロボット等に携わる職員のモチベーションを維持・向上させていくためには、導入の検討を決めた経緯やPDCAサイクルの意図、介護ロボット等の活用目的など、介護ロボットマネージャーが考えていることを説明することが大切です。

介護ロボット等の上手な活用には、職場全体で人材育成を行い、職員がそれぞれに役割を果たすことが大切です。介護ロボットマスター育成講習では、介護ロボットオペレーター（初級）には介護ロボット等の基礎知識の習得、介護ロボットリーダー（中級）には機器活用マニュアルの作成を含む現場職員への支援、介護ロボットマネージャー（上級）には職場全体で効果的な活用を推進するための統括的役割を期待しています（表2）。

表2. 介護ロボットマスター育成講習 各クラスの全体目標

コース	全体目標
【初級】 介護ロボットオペレーター	職場において自分で介護ロボット等を使用するのに必要な知識等を習得する
【中級】 介護ロボットリーダー	導入した介護ロボット等について、自分の職場に適した活用マニュアルを作成できる知識と技術を習得する
【上級】 介護ロボットマネージャー	介護ロボット等の導入・活用を促進し、職場全体の作業効率を高めるノウハウを習得する

1-4 北九州市の実証施設における導入機器と現場の声

北九州市では、平成 28 年度から介護ロボット等の導入・実証事業を開始し、介護ロボット等を活用することで、介護職員の心身の負担軽減やケアの質の向上などを目指した取組みを推進しています。その中で、実際に機器を導入した実証施設の職員からいただいた意見や感想の一部を紹介します。

< 移乗支援機器（非装着型） >

- ・負担を感じず 1 人で移乗介助を行えた
- ・利用者の拘縮が軽減した
- ・利用者の痛みの訴えが減った
- ・2 人作業が 1 人作業になった
- ・腰部の痛みが多少和らいだ
- ・利用者に安心感があるように見える
- ・移乗中、利用者の笑顔が増えたように感じる
- ・利用者の皮膚剥離や皮下出血がなくなった
- ・利用者がよくフロアに出てくるようになった



Hug T1 (株FUJI)



SASUKE (マッスル株)

< 移乗支援機器（装着型） >

- ・腰への負担軽減を実感できる
- ・腰痛、頭痛による不眠が減った
- ・コルセット代わりに安心感がある
- ・オムツ交換時に有効



マッスルスーツ Every
(株イノフィス)

<立ち座り・移動支援>

- ・歩行を見守るだけになり、身体的な負担が軽減した
- ・歩行状態の把握ができた
- ・起立から歩行までこの1台でカバーできる
- ・介護量が減り、自立支援になる
- ・立位や歩行の安定に活かせる

<コミュニケーション>

- ・利用者の笑顔が増えた
- ・興味を持ち、とても喜ばれた
- ・利用者が明るくなりリビングにいる時間が増えた



PALRO (富士ソフト(株))

<見守り支援>

- ・ずり落ちが減った
- ・夜間の巡回回数が激減した
- ・事故の予防になる
- ・利用者の入眠確認ができる
- ・何度も直接見に行く負担や回数が減る
- ・職員の業務の振り返りができる
- ・ムダな巡回が減った
- ・訪室の必要性が把握でき、作業が効率化した
- ・訪室の優先順位がつけられる



Neos+ Care
(ノーリツプレジジョン(株))



みまもり CUBE
(株)ラムロック

<記録支援>

- ・記録時間が短縮でき、その分時間を有効に活用できる
- ・その場で記録ができる
- ・メモ紙を使用しなくて済む
- ・誤字が減った
- ・複数の記録用紙を使用しなくて済む

<情報共有支援>

- ・ 職員の情報交換が早くなり、利用者へのサービス向上に繋がる
- ・ 業務の効率が上がる
- ・ 緊急時の対応が迅速になった
- ・ ムダな動きが減った
- ・ 業務時間の短縮

<リハビリテーション>

- ・ 安全性に優れていると思った
- ・ ロボットを使用することで、リハビリの意欲向上に繋がった
- ・ 利用者の活気のある意見を聞いた
- ・ 歩行能力の維持が期待できる
- ・ とても自立に繋がっていると思う

こうした機器の導入により大きなメリットを得られる反面、施設の構造・設備などのハード面や、利用者やスタッフなどのソフト面の状況により、機器によっては導入が困難だったり、導入効果を十分に得られない場合もあります。現時点で万能な機器というものは存在しないため、自施設において、どの機器がマッチングするかを、インターネットやメーカーに問い合わせるなどして事前に調べ、慎重に導入計画を立案することが必要です。